

教員・職員・学生の外国人比率30% 「全学的国際化」実現を目指す理由

地方の私立大学としては異例の「全学的国際化」を目指す山梨学院大学。2030年までに教員・職員・学生の外国人比率を30%まで高める「30プロジェクト」を始動させ、学内の国際化を急ピッチで進めると同時に、海外の大学との関係も強化している。同大学が推進するダイバーシティ向上を通じたグローバル人材育成の取り組みとその狙いについてひもといていく。

少子化の影響で、多くの大学が学生の確保に苦慮する中、山梨学院大学の志願者数は増加傾向にあり、今年度の志願者数は過去10年で最高を記録した。

そんな状況においても同大学がこだわっているのが留学生枠だ。留学生は授業以外にもさまざまなケアが必要で、受け入れは決して



国際化担当副学長 張華

簡単ではない。日本人学生を増やしたほうが現場の教員や職員の負担は減るのだが、むしろ留学生枠の拡大を視野に入れている。背景にあるのは加速する人口減少への危機感だ。国際化担当副学長で経営学部教授の張華氏は次のように語る。

「日本の出生数はついに90万人を切りました。地方の状況はさらに深刻で、山梨県では2018年度に約8000人だった18歳人口が、36年には6000人を切ると試算されています。今はよくても、将来的には世界で戦える大学にならなければ、生き残ってはいけません。そこでわれわれが力を入

ているのが国際化なんです」
世界の市場で戦う覚悟
ターゲットは中国・インド

今後、日本の少子化がより深刻なものになるとともに、大学業界では統廃合が加速し、冬の時代が到来することが予想される。一方で、中国やインド、ASEAN諸国では人口増加や経済発展などにより、高等教育への需要が高まっている。つまり、日本の大学は学生を確保するために、世界のマーケットで戦う覚悟が必要になってくるのだ。

同大学では、30年までに、教員・職員・学生の外国人比率をそれぞれ30%に引き上げ、全授業科目の30%を英語や中国語などの外国語で開講することを目指す、「30プロジェクト」を全学を挙げて強力に推し進め、世界で戦う土台づくりを行っている。



西安交通大学とのダブルディグリー協定調印式の様子

「人口が多く、経済成長の著しい中国とインドを留学生獲得の最重要マーケットと位置づけています。これらの国々との関係づくりは時間がかかり、ノウハウも必要です。国内マーケットの縮小がより深刻化する前に、しっかりと国際化への環境整備を進めて、大学としての国際競争力を高めていきたいと考えています」（張氏）
「30プロジェクト」実現に向け、19年には中国籍で当時准教授だっ



国際リベラルアーツ学部 学部長 Sanjay JHINGAN

た張氏を国際化担当副学長に抜擢。中国人教員や中国語で履修可能な科目を増やしたり、留学生が安心して生活し、日本で集中して学習に取り組みめるよう国際学生寮の整備を行った。

また、同年から国際リベラルアーツ学部（以下、iCLA）の新学部長にインド国籍で教授のサンジェイ・ジンガン氏を登用。iCLAは英語だけで科目履修・卒業が可能で、今後の産業構造の潮流を見据え、「Computer Science」のメジャーを新設する準備を進めている。

世界の一流大学と提携し、人材の流動性を高める施策

同大学では「全学的国際化」を掲げて世界の有名大学と提携し、人材の流動性を高め、ダイバーシティ向上のための施策を次々と

提携大学国際ランク



オックスフォード大学
世界大学ランキング2020
(Times Higher Education)



西安交通大学
中国大学ランキング2019
(上海軟科教育信息咨询有限公司)



世界大学ランキング2020
(Times Higher Education)



ニューメキシコ大学
世界大学ランキング2020
(Times Higher Education)



19年5月には学内に孔子学院を設立。孔子学院は、中国の大学が海外の大学と提携し、共同で語学活動や文化活動、友好活動を実施する教育機関で、日本では15校目の開設だ。提携する西安交通大学は、中国国家重点大学の1つで、「THE世界大学ランキング2020」では501-600位に入っている。19年12月にダブルディグリー協定を締結し、教員・

学生の相互交流を加速させ、国際経済や貿易、国際ビジネス分野でのグローバル人材の共同育成を目指している。
さらに、「THE世界大学ランキング2020」で301-350位の米ニューメキシコ大学とも提携し、ダブルディグリープログラムの実現に向け具体的な協議を進めている。このほか、研修・留学先として30以上の国と地域の100大学以上と学術提携を結んでおり、海外とのパイプは太い。
大学の国際化は、日本人の学生にとっても大きな刺激になっている。多様な文化や考え方に触れることで、グローバルな視野を身に付けられるからだ。授業でも留学生との接点は多く、文化的多様性を学部教育に活用している。
「日本人と留学生が一緒に学び、多様な視点を獲得することは、社会に出たときに必ず役に立つはずだ。国際共修により海外への関心が高まれば、留学だけではなく、海外の企業や国内のグローバルカンパニーへの就職など可能性は無限大です。われわれは、これからもグローバルな視野を持って社会貢献できる人材を輩出できるように、挑戦し続けていきます」（張氏）